

桂昌院奉納の灯籠

江戸時代(1603-1867)に日本を治めていた徳川家の家紋が入ったこの灯籠は、銅で鑄造された名品で、五代将軍徳川綱吉(1646-1709)の母である桂昌院(1627-1705)によって神社へ奉納されました。

桂昌院は、下層階級の生まれでしたが、将軍徳川家光(1604-1651)の側室になり、跡継ぎを生みました。家光の跡継ぎを生んだ為、当時の女性にとって最高の地位に昇りつめました。将軍の母であり、個人的な助言者となったのです。家光の死後、桂昌院は尼になりましたが、1705年に亡くなるまで、息子である将軍綱吉に様々な問題について助言し続けました。

この灯籠を奉納した他にも、桂昌院は桂昌殿を建立しました。これは春日大社と、徳川家との歴史的な強い結びつきも表しています。